

## マダニ感染症に注意!

マダニの多くは春から秋(3月～11月)にかけて活動が活発になり、マダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTF)」が増加します。

幡多福祉保健所管内(黒潮町、四万十市、宿毛市、土佐清水市、大月町、三原村)でも確認されており、発症すると重症化することも多く、有効な治療法やワクチンも無いため感染予防が特に重要です。

### ◆マダニとは

マダニは食品などに発生するコナダニや、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は固い外皮に覆われた比較的大型(吸血前で3～4㎍)のダニです。

シカやイノシシなどの野生動物が出没する環境に多く生息していますが、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

### ◆「重症熱性血小板減少症候群(SFTF)」とは

SFTFウイルスを保有するマダニ類から咬傷されることよって感染し、発症するウイルス性感染症のことです。

### ◆潜伏期

病原体に感染してから身体に症状がでるまでの期間はマダニに咬まれてから6日～2週間です。

### ◆症状

主に発熱や消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑)を起こします。

### ◆予防について

マダニに咬まれないようにすることが重要です。農作業や庭仕事、レジャーなど野外で活動する際にはマダニから身を守る服装をし、直接地面に腰を下したりせず、敷物やイスを使用しましょう。

屋外活動後はシャワーや入浴をしてダニがついていないか確認しましょう。

### ◆もしマダニに咬まれてしまったら

マダニに咬まれても痛みや痒みは少なく、気が付かないことが多いようです。

吸血中のマダニに気が付いたら潰したり、無理に引き抜いたりせずに医療機関で処置を受けてください。マダニを無理に取り除こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあります。

マダニに咬まれたら数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が現れた場合はすぐに医療機関で診察を受けてください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836(直通)

佐賀支所地域住民課保健センター

☎ 55-7373(直通)

## マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう!

